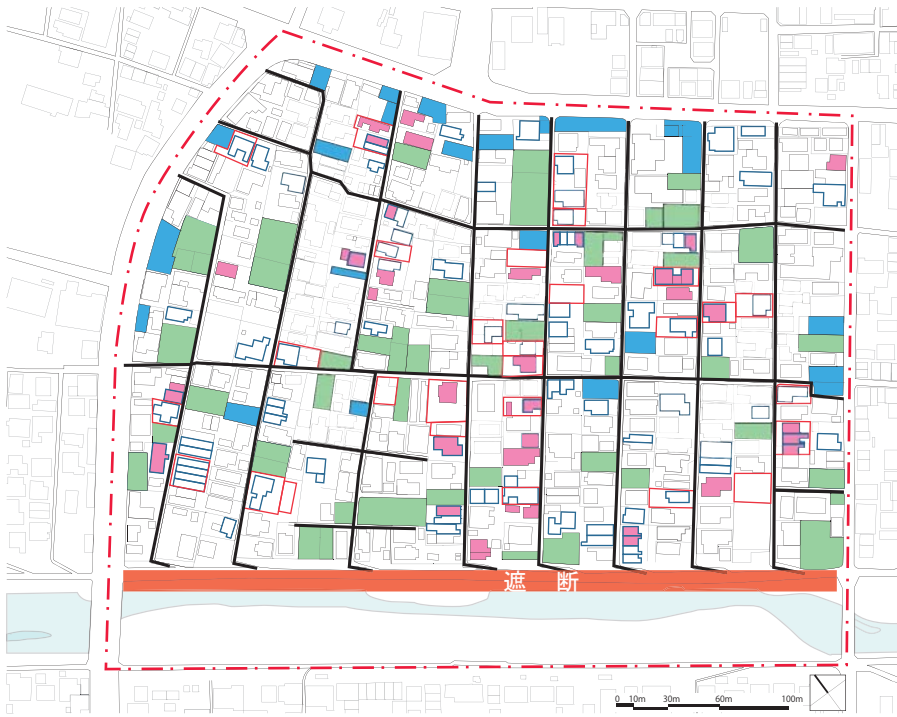


芹橋コンソーシアム

～賃貸運営によるサスティナブルタウンの構築～

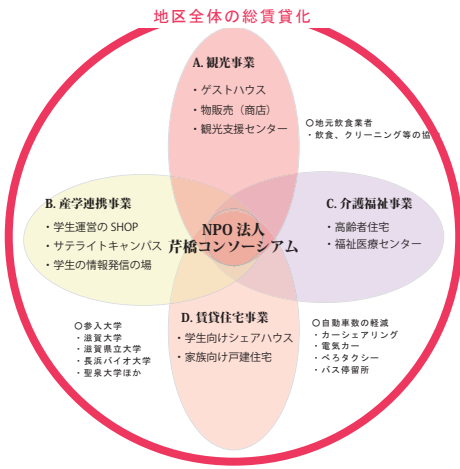
■ 芹橋地区の現況分析



- 足軽屋敷 (20軒)
- 戦前の木造建築
 - ・住民の高齢化
 - ・維持管理が困難
 - ・老朽化の進行
 - ・空き家の増加
- 空き家 (36軒)
 - ・古民家の空き家の増加
- 空き地 (22箇所)
- 駐車場 (38箇所)
 - ・内部に散在し、町並み景観を崩している
 - ・内部の大規模な駐車場による車両進入
- 交通
 - ・間口一間半の街路によって、車のアクセスが困難
- 芹川流域周辺
 - ・車道によって芹橋地区と芹川の関係性が途切れている

- 足軽屋敷、古民家、空き家、空き地に対する新たな事業計画
- 駐車場の増加、自動車の進入を防ぐ新たな交通整備手法の提案
- 芹橋地区と芹川を繋ぐ新たな施設の導入

■ 新たな事業スキームの提案



芹橋地区における新たな事業スキームへの足がかりとして、地域住民、大学研究者、設計者、不動産業者によって新たなNPO法人「芹橋コンソーシアム」を設立する。

「芹橋コンソーシアム」は、サスティナブルタウン、コミュニティビジネスの構築により地区全体の総賃貸化を目指すため、主に4つの事業体系によって運営される。

- A. 地域遺産を整備し、旧市街地からの観光客を引き寄せる「**観光事業**」
- B. 地域住民や滋賀県内の大学と市民、そして県内企業との交流を誘発し、市民の目線からの産学交流の場を創出する「**産学連携事業**」
- C. 地域住民の高齢化に適応し、フレキシブルな介護レベルを「街区内」に設定した、新たな「**介護福祉事業**」
- D. 学生やファミリーといった住民の新規参入を促す 「**賃貸住宅事業**」

以上4つの事業体系が主軸となり、「学生」、「観光客」、「介護」という循環する人材を対象に、**地区全体の賃貸運営化**による地域コミュニティビジネスを展開する

人々の往来によって生み出される
サスティナブルな都市修景システムの構築